

くじら石とはさみ石 奈良県

むかし、尾山の天神さまからちよつと下つたところに、大きな深い岩穴がありました。

そこに天狗が住んでいました。その尾山から、五月川をへだてた川向かいに、嵩山という高い山がありました。その大きな松の木にも、天狗が住んでいました。

ある日のこと、尾山の天狗が、嵩山の天狗に、

「おおい、嵩山の天狗さんよお。このごろ暇でしかたがない。なにかおもしろいことでもないかのう」と呼びかけました。

嵩山の天狗は、

「おお、おれも暇でしかたがない。何かやつてみようじやないか」といいました。

「何をしようか」

「そうだなあ。石で何か作つてみようか」

そこで、尾山の天狗が、

「おれは、いま流行りはじめた、はさみというものを作つてみるわい」というと、嵩山の天狗は、

「おれは、海にいる大きなくじら、あれを作るわい」といいました。

「よし、では早く作ろう。おたがいに見せあいしようじやないか」

あくる日から、カツチンカツチンと岩をきざむ音が、月ヶ瀬の五月川の山あいに、だましました。毎日毎日、カツチンカツチン、カツチンカツチン。そうして、ようよう。

「おおい、できたかあ」

「おおい、できたぞう」

尾山の天狗が、

「ようし、ではいちど、おれところへ見にきてくれ」というと、嵩山の天狗は、ぱあと山を下りて川を上つて、尾山まで来ました。すると、ものすごく大きなはさみができてしました。

「うわあ、みどりだなあ」

嵩山の天狗は、びっくりしました。

「よし、こんどはおれのところへ見にこいよ。ものすくいくじらを作



つたんだ」

そういうながら、「とにかく一杯飲もう」と乾杯して、尾山の岩の上でふたりきげんよくお酒を飲んでいました。そのときいきなり、ぐらぐらぐらうと、大きな地震がおきました。さあ、たいへんです。ふたりの天狗は、あわてました。尾山の天狗は、はさみを両手でガツとつかまえました。嵩山の天狗は、山のてっぺんに乗せてある大きなくじらがころがり落ちないように、走ってつかまえにいきました。ところが、嵩山の天狗がもうすぐ山に着くいうところで、くじら石は、ゴロゴロゴローッとものすごい音をたててころがり落ちました。

それで、五月川のそばにはくじら石ができ、天神さまの下にははさみ石ができました。

今はダムができて、ふたつとも沈んでしまいました。

原話・『子どもと家庭のための奈良の民話2』

共通語再話・村上郁